令和4年度作文コンクール

安全振興会では、生徒の皆さんの安全意識の向上を図るために、「安全」又は「健康」をテーマに作文コンクールを実施しています。今年度も素晴らしい作品が多数寄せられました。髙梨智委員長、清野史康副委員長、米山謙、程島宏美、平松和夫、海浦洋子委員の６人の元校長先生に審査をお願いしました。最終選考会では、最優秀２編、優秀６編、佳作40編が決定されました。この中から最優秀に選考された作品を掲載しました。

最優秀賞

黄色の旗から学べたこと

県立川和高等学校　二年
小嶋　涼香

「おはようございます。」今日も子どもたちの元気な声が通学路に響き渡る。子どもたちの声の先にいるのはいつものおばあさん…。

私は高校に自転車で通学している。その通学路には交通量の多い大きな道路があり、近くに小学校があるため、たくさんの小学生が横断歩道を渡る。毎朝子どもたちの交通安全を守っているのは、黄色の旗を持ったおばあさんだ。おばあさんは子どもたちの交通安全を守るだけでなく、一人ひとりに声をかけてお話ししたり「手をあげて渡るのよ。」と子どもたちが自分で自分の安全を守れるような交通マナーを教えてくださったりしている。学校に行くのが憂鬱そうな子どもには、「毎日学校に行って偉いね、いつも頑張っているね。」とメンタルケアをし、「昨日はね、徒競走で一番だったの！」と嬉しそうに話す子には「すごいわね！きっと運動会でも一番になれるわよ！」と明るい言葉をかけている。コミュニケーションをとることで、子どもたちの心のケアもしてくださっているのだ。道路を渡ったあとには不思議と子どもたちの顔が明るくなっている。私はその様子を見て、おばあさんの力はまるで魔法のようだと感じた。

この出来事から私が考えたことは二つある。一つ目。自分で安全を守る工夫と、地域社会で協力してつくる安全環境の重要性についてだ。二〇二一年の交通事故発生件数はおよそ三〇万五〇〇〇件、負傷者数はおよそ三六万二〇〇〇人であった。私自身も生活の中でヒヤッとするような危険な場面に出くわすことが何度かあった。交通事故は双方の不注意で起こる場合が多い。私は現在十七歳で、来年、免許を取得すれば車の運転ができる年齢になる。「大人になる」ということは、相手の安全にも責任をもつ、ということだと感じている。また、おばあさんのように事故を減らし安全な環境をつくることの大切さを実感した。

二つ目。心の「健康」を保つための工夫についてだ。「人の心を傷つけるのは人である。だが、その傷を癒すのもまた人である。」私は数年前に読んだ本のこの言葉が今でも鮮明に心に残っている。悲しい気持ちになった時、誰かに話すことで楽になれるし、嬉しい事があった時、誰かに共感してもらうことでさらに嬉しい気持ちになれる。人は他者とコミュニケーションをとる中で気持ちを整理し、心の「健康」を保てるのだと、毎朝たくさんの子どもたちとコミュニケーションをとり、心のサポートをしてくださっているおばあさんの姿を見て学ぶことができた。だから私もクラスメイトや周りの人、家族とのコミュニケーションを大切にし、自分自身、そして相手の心の「健康」にも目を向けて生活していきたい。

今回の作文テーマであった「安全」と「健康」。私は将来おばあさんのように、自分だけでなく周りの人の安全と健康を気遣える大人になれているだろうか。いや、なってみせる。

最優秀賞

自分の色

県立鎌倉高等学校　二年
古俣　遥香

「自分が自分でいること」は、こころの健康を支えると思っている。見えない敵と戦うようになってから二年半、表情の要ともいえる「口」が見えない状態で会話することが多くなったことで、相手の感情が読み取りにくくなってしまった。そのことによって、マスクの下にある他人からの自分に対する本当の評価を恐れ、自分を捨てて相手に合わせてしまうこともある。しかしここで大切なのは、「自分が自分でいること」だと思う。

「隣の芝生は青い」「隣の花は赤い」などという言葉があるが、私たちはこれらの言葉をどういった風に捉えるべきであろうか？私自身もそうであるが、「なんとかなるでしょ。」と口には出してみるものの、本音では周りからの見え方を気にしていて、優れた自分でありたいという思いがあるから、このような言葉があるのではないかと感じる。誰かを、何かを、羨ましいと思うことは、多くの人が持つ感情であり、憧れを持つことで目標が決まることもあると思う。けれど、その事によって、自分を失ってはいないだろうか？周りの方が優れて見えること、先程でいえば、芝生が青く見えたり、花が赤く見えたりすること、それらは美しい青や赤に見えているのだと思うけれど、自分の色はどうだろうか。私はきっと完璧な色はなく、目標とする青や赤ではない色の人も、全ての人が持っている色が美しい色なのだと思っている。自分を失って手に入れた欲しかったはずの色と、自分を維持して守った自分の色。こころを健康に保つには、やはり自分の色が大切になってくると思う。

十人十色という言葉があるように、その全ての色が美しく、尊重されるべきである。一方、憧れを持つことも大事なことである。でもそれは参考にすれば良いのであり、正解ではない。同調することも大切であり、他の人の意見を聞き入れることは自分のためになることも多い。けれど、自分の色は自分で決めることができ、無数の美しい色で溢れているこの世界のどの色を誰が選んでも良いし、新しい色を創り出すこともできると思う。

そしてここからは、もう少し経験を積まないと分からないことだけれど、そうした自分の色をなんとなくでも見つけることは、この先の生活で大きな意味を成すと考えている。「自分が自分でいること」が出来れば、自分のこころの健康を守ることが出来るだけでなく、相手のこころの健康を気遣う余裕も出来るかもしれない。自分の色だって、正解がない分、何度でも修復が出来るのである。今、不安な状況の中にいる私たちがするべきことは、自分を失わず、自分なりの色を探してみることなのではないかと思う。